



地方の武士(粉河寺縁起絵巻 和歌山県 粉河寺蔵) 河内(大阪府)の豪族の屋敷で、門番をして警備にあたっているようです。

都でも、地方でも武士が現れたのかな。



貴族と武士は、都ではどのような結びつきがあったのだろうか。

都で警護にあたる武士

都で、天皇や公家の警護にあたっているようです。(平治物語絵巻 東京国立博物館蔵)

10世紀

11世紀

武士の登場

武士はどのようにおこり、どのようにして力をつけていったのだろう。



将門の首塚 東京・大手町のビル街には、今も将門を供養する首塚があります。

武士のおこり

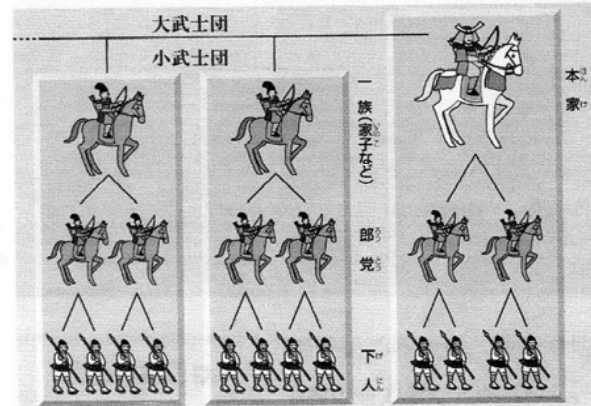
10世紀ごろから、各地で地方豪族や村の有力者などが武装し、土地をめぐってたがいに争うようになりました。なかでも、弓矢や騎馬の武芸にすぐれた者は、国司につかえて地方の役所で警備などにあたり、武士とよばれました。都では、天皇の子孫で源や平の姓をもち、軍事や武芸を専門にする貴族がいました。彼らは、皇族や有力な貴族につかえて侍とよばれ、護衛や朝廷の警察の仕事について武士としての地位を高めました。やがて、これらの貴族たちが国司として地方に来ると、その家来になったり、彼らと婚姻を結んだりする者が現れました。こうして源氏・平氏などの武士団が生まれ、そのリーダーは棟梁とよばれました。棟梁を中心に武士たちはまとまり、勢力を拡大していきました。

10世紀中ごろ、関東では、武士の平将門が、武士を率いて



武士団(前九年合戦絵詞 千葉県 国立歴史民俗博物館蔵) 東北地方で起きた戦乱のさいに、源頼義が家子と郎党などを引きつれて行動しているところです。武士団が形成されていることがわかります。

地方の役所をおそいました。同じころ、瀬戸内地方では、藤原純友が、海賊たちを率いて都の近くにまで攻めこんできました。おどろいた朝廷は、武士たちの力をかりて、ようやく乱をおさえました。



武士団のしくみ

東北地方の発展

東北地方では、朝廷の力が弱まったあいだに、蝦夷たちの自立が進み、その子孫の安倍氏や清原氏が豪族として力をのばしました。11世紀の後半、彼ら一族の勢力争いで2度の戦乱が起りましたが、源義家が関東の武士を率いてこれをしずめ、源氏は東日本で大きな勢力をもつようになりました。その後、奥州藤原氏が東北地方の統一を進め、砂金や馬の売買で築いた富をもとに、独立国のような勢力をもつようになりました。平泉(岩手県)の町には、中尊寺などの寺院や、りっぱな屋敷が建ちならび、京都の文化も積極的にとり入れられました。



中尊寺金色堂の内部 建物や仏像に金箔がはられています。



地方と都の両方で武士が登場してきた背景を考えてみよう。